

外国語の授業の課題

- 1 単元を通して新出の言語材料（語や文法事項など）の定着そのものを目標にするなど、文法中心の授業が見られます。
- 2 「表現」が目標となっているが、「理解」を中心とした言語活動を主に行うなど、「日標・指導・評価」にねじれのある授業が見られます。
- 3 多様な言語活動を工夫して行うが、本時の目標の実現状況を確認しないまま終わってしまう授業が見られます。

授業改善のための取組として（案）

□ 文法事項と関連付けたコミュニケーションを図る言語活動を位置付けましょう。

- 文法は、コミュニケーションを実際に行う言語活動と効果的に関連付ける。
- 英語を使ってどのようなことができるようになるのかを明確にした日標設定を工夫する。

・ Before

【「知識・理解」に重点を置きすぎた単元日標例】
第1学年
○三単現を用いて英文を書く。
○三単現に関する知識を身に付ける。
○三単現を含む英文の意味を理解する。

改善
→

・ After

【言語活動を位置付けた単元目標例】
第1学年
○インタビューにおいて間違いを恐れずに話す。
○友だちにインタビューしたことを基に、絵本の形で友だちの紹介文を書く。
○三単現を用いた文の構造を理解する。

※単元の目標において、知識・理解に偏っていることが課題です。

※習得した知識や技能を活用して、どのようなことができればよいのかを明確にします。

□ 本時の目標に正対した言語活動を位置付けましょう。

- 目標に応じた言語活動例
【外国語表現の能力】:自分の考えや気持ち、事実などを伝え合う言語活動
【外国語理解の能力】:聞き取ったり読み取ったりした内容の概要を主体的に考えたり、判断したりしながら理解する言語活動
・例えば、二人が会話する英文を聞き取らせた後、会話の内容について英語で質問して理解の状況を確認することにとどまらず、会話の続きを考えさせる活動を工夫する。

□ 導入をコンパクトにするなどして、主な言語活動等において生徒の学習状況をじっくりと把握しましょう。

- 主な言語活動等では、評価規準に応じて本時の目標が達成できたかどうかを確認する。
- 評価方法は、行動観察、ワークシートの内容、面接など、本時の日標に応じて工夫する。

【コラム】 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定

「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点について、生徒が身に付ける能力を明確化し、主に教員が生徒の指導と評価の改善に活用することを目的に、学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」という文の形で設定することが望まれています。

*文科省手引掲載

HP:http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/l332306.htm